

神戸市総合基本計画審議会 第4回活力・魅力部会議事要旨

日時：平成22年3月29日(月)9:00～11:01

場所：神戸市役所1号館28階第4委員会室

出席委員：加藤恵正部会長ほか16名

【議事要旨】

- ・ 議事に先立ち事務局より、資料2「審議経過」及び資料3「第2回総会議事要旨」、資料3の参考資料「追加委員意見」の説明が行われた。
- ・ 加藤部会長から議事次第に従い議事に入る旨発言があり、本日の議題である「神戸づくりの指針素案」(資料4「第2回総会資料」及び資料5指針素案「概要版」)により、事務局より順次、説明が行われ、審議された。(審議内容についての委員意見は以下のとおり。)

【神戸を取り巻く社会・経済の動きについて】

- ・ P9 世界や日本の動きは動向分析しているが、その中で神戸のスピードは速いのか、どういう方向に向くのか、そういった分析があれば、わかりやすくなるのではないかと。
- ・ P11 関西メガリージョンの形成について、広域連携を結んでいくことは必要不可欠で大事であるが、P15「道州制の導入も見据え」との記述は、「導入することの議論も見据えて」などがよい。道州制まずありきの表現ととられると影響が大きい。
〔道州制については、基礎自治体重視や地方自治法改正などの最近の動きもあって、確度が時事変わっている。今後ともそれらを踏まえ考えたい。(事務局)〕

【働きやすい環境を整える】

- ・ 指針は市がこういう方向だということがわかる。神戸で育って保育所から大学まで公教育を受けた者が就職して東京に税金を払っている。P28「働きやすい環境を整える」はそのとおりだがもう少し深めてほしい。

【ものづくり産業を発展させる】

- ・ 町工場がまちにとって役立つことは仕事の間をつくること。現状、機械金属工業会会員企業は倒産こそ免れているがまだ水面下にある。中小企業に企画力が無いことも事実であるが与えられた仕事を忠実にこなしてきたからであって、「企画力が無い」というより「必要でなかった」という表現がよい。
- ・ 企画力も大事だが、経営企画力、自社の進むべき方向をどうするか。企業は必ずしも大きくならなくてもよく、設備を特化して少人数でも業績のすばらしい企業も多い。経営企画力を高めることが大事である。人材も学校だけでなく実社会での経験も大事である。
- ・ P33④の企画力は企業が自発的に取り組む課題で、マッチングは行政がコーディネートできる部分。「企業」が努力することと「行政」や「学」とが力を出しあって進めていくことなどあるだろう。企業収益が落ちて可処分所得の減少に対しては、女性や障害者の社会参加や平均所得底上げ策などが考えられるが、記述は部局縦割的で連携しているように見受けられない感じがする。
- ・ 大企業の事業再編成により神戸の事業所を閉めて移転すれば中小への影響は大きい。そのようなことのないよう大企業と情報をとりあうなど神戸から出て行かないよう考えることが大事。

【観光交流と企業誘致を進める】

- ・ デフレで魚の価格が下落しているので市場ある市が発展しないといけない。観光に力を入れてほしい。神戸がどんなまちかを知っている若者が少ない。隣の京都の若者も神戸を知らない。安心して観光できることをアピールするなど、観光客を増やすことでの経済効果は大きい。
- ・ P34 滞在型観光を推進するのは大変よいことである。長期の1〜2週間滞在となるとホテルでない施設が必要となると思う。そういった施設を考えるなどすればどうか。
- ・ P45④イ、有馬等の記述や P35②ア「開港の歴史」を幕末明治期とすれば兵庫の津がとんでしまう。概要版 P2 幕末以降も同様。「古代以来の国際港都の歴史」などがよい。幕末明治の開港は神戸の歴史のスタートではなく、港まちの歴史があつて開港に至ったものである。
- ・ 京橋の海軍操練所跡碑に、最近、若い人や東京など遠方から多く観光で訪れている。
- ・ 「神戸」というブランドは知られているが神戸の中身を知らない人が多い。まちづくりはそれぞれで頑張っているが、分散されている須磨や六甲山、灘の酒蔵、兵庫の津などまずどこにいったらいいかわからない。わかるのは有馬ぐらい。観光地図がもらえたり観光ルート相談、案内のできる具体の施策が必要。

【「知の集積」を活かす】

- ・ 医療産業都市構想は市民にどういうメリットがあるか。高度医療と市民サービスの関係では、医療を受けるときに相談する場やサービスの提供をどう充実させていくかを書いてほしい。
- ・ 医療は時間がかかるもので10年、15年のスパンで考えないといけない。受けれる医療の最後に先端医療がある。患者の病気が一つの病院で治ったかどうか、先端医療ではどうだったのかという評価を個々に判断するのではなく、医療全体を通して患者満足度を評価するシステムをつくっていくことが必要である。基礎研究的な先端医療の役割も重要であり、その部分は日々の医療サービスの評価と切り離して考えていく部分もある。
- ・ 医療産業都市を市と一緒に進めていくなかで研究者が市民の声を聞く状況が生まれてきている。
神戸に研究者等の集積があるが、基礎から臨床、予防すべては難しく特化して進める必要がある。また、先端医療研究の成果が高額医療であれば市民は利用できないので、規制を持つ国などの支援をいただきながらどういった仕組みをつくっていくか、市民への理解を深め情報発信をしながら進めていきたい。(事務局)
- ・ P46③の健康について、最近、大学の公開講座でアンチエイジングに人気があり、指針でどこまで書くかということもあろうが、例示として入れてもよいかもかもしれない。
- ・ 理研の立地検討の際、関西にはバイオの文化があること、他都市では市の中心から公共交通で10分圏内で土地があるところがほとんどなかった。しかし、神戸は、都会であり農業と地下鉄で結ばれていて、知の集積だけでなく、新しいアイデアが出てくる。
- ・ 知の集積について、「けいはんな」研究都市では、研究所や企業が集積していたが企業が抜けていると聞いている。ポートアイランドでは、企業が留まるモチベーションを高めること、維持拡大していく視点も大事であり、そういった仕組みも盛り込まれたら良いと思う。

【低炭素社会を実現する】

- ・ 低炭素 P54③の都市構造だけではなく機能も入っている。官がすることだが「形成する」といいきってよいか。官だけでも民だけでもできない、構造・機能・運営といろいろ入っている。構造だけでなくい

かに運営するかが大事。

- ・ 低炭素社会について、例えば、ポートアイランドⅡ期で太陽光発電を行い、住宅の多いⅠ期の電力需要を賄うなどどうか。

【協働と参画をさらに進める】

- ・ ポートアイランドで先端医療を進めるなかで患者団体等と対話をしてきたが、大学との関連は少ない。例えば、NPO法人の記載であれば縦割りで書くのではなく横のつながりを書いてほしい。患者団体で寄付控除を受けられる公益法人法をクリアする団体はない。寄附による資金が入らずに困っており市民基金など含め市で融通するなどできないか。大学は先生との対話だけでなく患者団体とつなぐコーディネーションの役割を担う人や機会があればよい。

【効率的な経営をさらに進める】

- ・ 市民サービスをどう考えるのかの視点が少ないと感じる。ワンストップサービスなど、市民サービスがどうか変わっていくのか、まとめなどにいれてはどうか。

〔概要版 P1「神戸づくりにも取り組む」、P8の「協働と参画」「効率的な経営」のところに今回はまとめて書いているところであるがわかりにくいようであれば検討する。(事務局)〕

【多様な「人材」により神戸の力を高める】

- ・ 「人材」の表現は途中から「人材」となっている。神戸は「ひと」を財産と思っているんだと最初に宣言をして冒頭から「人材」を使えばどうか。
- ・ まちとしてこれからどういう人材が必要とされているのか。無から有を産む、組み合わせで新たなものをつくる発想力を持った人材が必要。行政・企業・市民が具体に実践し、動きがあることを市民は感じ取りたいと思う。どういった人材を必要とするのかを明確に記述すればよい。

〔「人材」の表現については、都市戦略の観点から十分に表記できているかであるが検討する。(事務局)〕

【全般について】

- ・ 今後どのような産業を目指していくか、ある程度ビジョンを示されているのでよいと思う。
- ・ 全体的によくできているが横浜でも使える。神戸であれば防災、異文化共生、先端医療等をもっと書けばよい。
- ・ この状況でつくれば指針はこんなものだろう。行政がどこに重点をおいて予算をつけるかが見えてはじめてわかるものだと思う。
- ・ 2025年の社会は今考えても違ったものが出現する場合に備え、複数のプランニングを、議論する上で考えると抜けや突っ込むべきものが見えてくる。時間軸も5年、10年後に実現すると書くと誰が何をするか、具体的な主体が見えてきて納得感のある提言になると思う。
- ・ P68に各主体の役割が書いてありそれでよいが、これからはリーダーシップ、主体者、フォロアー、支援の4つの立場が必要になってくる。具体的に事業として進める段階では、自分がなすべきことはなにかをわかるようにしていただければよい。
- ・ 企業がすることや行政サポートなど主語があいまいな部分の表現整理を行っていききたい。この指針は、従来の縦割りから脱却すべくつくられていると思うが、経済と人づくりの接点、経済領域とのかかわりなどは、最後に人材の方向性の部分でまとめている。もう少しわかりやすくできないか考えたい。

〔主体の役割については各部ごとに書く方法もあるが、P68、P69 にまとめて書いている。わかりにくいようなら検討したい。具体的な取り組みの記述については、会長、副会長からも指摘を受けており、抽象的なものになっているが工夫をする。タイムスケジュールは 2025 年の方向性を指針で書いて合意をいただき、主体ごとの記述や個別事業などは重点施策計画で書くことを考えている。(事務局)〕

- 神戸として誇りある歴史性、神戸発祥のもので日本全体の中心を形成してきた文化、外から見られたときにもっと神戸の良さがあるはずでありそういったものも強調するとよい。
- 政権が変わると当然国の方針が変わる。みなとも大阪シフトの可能性もあるし、規制緩和や公共事業を抑えてつぶれる業種もある。次世代スーパーコンピューターの事業仕分けの例をみればわかるが、政権交代の影響にも左右されない「神戸はここを守る」という考え、記述がほしい。
- 世界経済が大きく動いている。国の国土計画が取りやめているなかで市の総合計画は法律で残っており地方では作る義務があり、10年や25年目指して書かないといけない。どんな変化のなかでも守るべきもの、安全安心まちづくりが世界的にも神戸の主張のひとつのポイントである。市民生活の維持など指針の中で活かしていければと思う。難しい問題も多々あるが部会長ともにまとめていきたい。他の都市にない神戸の進む方向について、また、神戸の良さをどう活かしていけるかまとめていきたい。
- どのように成長を見通すかは難しい時代である。キーワードとしては、「多様性」があり、また、多様性を展開するための共通した想いが、共通の創造の地盤になりうる。シリコンバレーのスタンフォード大がよく言われるが、日本では、大学だけでなく行政が果たしてきたところもあるが、今後は、パートナーシップ、新しい協働の仕組みをつくっていくということ。事務局とともに整理してとりまとめていきたい。

以 上